

前芝中学校通信

～校長室の窓から～

豊橋市立前芝中学校

第61号

H28. 1. 12

新しい年のはじめに

～まとめの3か月で次のステージでいいジャンプができるような よりよい助走をしよう～

平成28年がスタートしました。今年が皆様にとって最良の年でありませう、心より願っております。

1月7日。生徒会主催による伝統の『百人一首大会』で盛り上がる生徒たちの元気な声で、前芝中学校の一年がはじまりました。滞標の会(学校評議員)の方々もご参観いただきました。

先立って行った『はじめの会』では、**年末の大掃除で家族への恩返しをした生徒の様子**や、「**自分でできることを考え、自主的に行う**」という**2年生女子の今年の抱負**等の話をしました。とても素晴らしい目標だと思いました。まだ今年のを決めていない生徒には、自分の半歩先の目標を決め、充実した日々を送り、成長してほしいと伝えました。

後半には、「**本物について**」の話をしました。人をからかったりして笑う「偽物の笑い」は必要でなく、文化祭で見られた、誰にとっても楽しい、温かな気持ちになる「本物の笑い」が大切であることや、最近良くなっている月曜朝会の校歌の歌声は、「合唱コンクールでの素晴らしい感動的な歌声が本物であることの証(あかし)」となることを話しました。

最期にアメリカの小学校教師であるロン・クラーク著の「あたりまえだけど、とても大切なこと=子どものためのルールブック=」から **ルール1** について話をしました。

ルール1 大人の質問には礼儀正しく答えよう

大人の質問に答えるときは、「はい、そうです」とか「いいえ違います」というように、いつもきちんとした言葉づかいで答えよう。ただ、うなずくだけではだめだし、乱暴な答え方もいけない。・・・普段からこういった礼儀正しい受け答えが身に付くようにしていたら、中学校入試の面接試験で、全員合格を果たした。

他にも困ったときに「**わからないので、教えてください**」と言えることも、礼儀正しい態度を身に付けることにつながりますね。生徒の皆さんの姿が、さらに磨かれるのを期待します。

前芝中学校の活動・生徒の姿から

【百人一首大会】 1月7日(木)

伝統のこの大会も第38回目となりました。生徒会役員の皆さんが、冬休み前からグループ分けや先生たちの袴を作り、前日リハーサルや当日の会場準備をして、本番を迎えました。

全校生徒が、学年や男女の枠を超えてグループを組み、かわり合うなかで日本の古典に親しむことを目的としています。大会に先立ち、雅楽グループ「菊理(くくり)」の近藤さんご夫妻が装束を身にまとい、笙と龍笛で「越天楽(えてんらく)」等、新年にふさわしい雅楽を聴かせてくださいました。演奏の合間には、雅楽に使われる楽器のことだけでなく「平安時代」「清少納言」などの言葉もはさみながら説明をしてくださり、日本古来の文化の一端を知ることができました。

百人一首大会では、先生が交代で百人一首を詠みましたが、次第にお互いの頭が付く近さになるほど、熱戦が繰り広げられました。上の句のはじめを詠んだところで下の句が拾えた生徒も多数いました。優勝は2年連続の2年生 牧平遥香さんで、60枚を超す札を拾いました。2位・3位の生徒や学級対抗については、今月末発行のすこやか新聞をご覧ください。





元気にはい「飛び込む生徒

豊橋前芝中で百人一首大会

冬休みが明け、多くの学校で授業が始まった。豊橋市前芝中学校(谷中緑校長)では7日、新春恒例の百人一首大会があり、会場となった体育館には札を取る「はい」という生徒たちの元気な声が久しぶりに響いた。

まず、市内在住の雅楽の演奏者2人の笙(しょう)と龍笛(りゅうてき)の柔らかな音色を堪能。心を落ち着かせてから札を囲んだ。

前半戦の獲得枚数により班を編成した後半戦では、上位を争うグループ内でし

「はい」と札を払う生徒。豊橋市前芝中学で

た教師らが読み上げる和歌に耳を澄ませ、狙いを定めていた句が出ると札へダイブ。「取れた」と笑顔で喜びに浸っていた。下の句が読まれる前に「はい」と札を払う生徒にはライバルたちから「すごい」と賞賛の声も上がっていた。

た教師らが読み上げる和歌に耳を澄ませ、狙いを定めていた句が出ると札へダイブ。「取れた」と笑顔で喜びに浸っていた。下の句が読まれる前に「はい」と札を払う生徒にはライバルたちから「すごい」と賞賛の声も上がっていた。

た教師らが読み上げる和歌に耳を澄ませ、狙いを定めていた句が出ると札へダイブ。「取れた」と笑顔で喜びに浸っていた。下の句が読まれる前に「はい」と札を払う生徒にはライバルたちから「すごい」と賞賛の声も上がっていた。

た教師らが読み上げる和歌に耳を澄ませ、狙いを定めていた句が出ると札へダイブ。「取れた」と笑顔で喜びに浸っていた。下の句が読まれる前に「はい」と札を払う生徒にはライバルたちから「すごい」と賞賛の声も上がっていた。

(飯塚雪)